

長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより 第148号（平成29年度）

第67回 長野県図書館大会・ 第29回 北信越地区学校図書館研究大会 を終えて

小中学校図書館部会 長野上水内支部長
長野市立清野小学校 河原 節子

11月10日（金）・11日（土）に第67回 長野県図書館大会 第29回 北信越地区学校図書館研究大会が長野市で開催されました。大会には、全国学校図書館協議会、石川・富山・新潟県の学校図書館関係者、長野県下の小学校・中学校・高等学校・大学・公共図書館等の図書館関係者、市民の皆様等、様々なお立場の皆様が大勢参加していただき、大会を盛り上げていただきました。また、運営面におきましても多くの皆様にご理解、ご協力をいただき大会を支えていただきました。誠にありがとうございました。

大会のテーマ「生涯にわたり学びを支える図書館のあり方」のもと、大会1日目は、学校図書館や図書館教育の新しいあり方について長野市立湯谷小学校・長野市立豊野中学校・高等学校図書館部会で公開授業や実践発表、研究協議をしていただきました。その中で児童生徒の学びの姿や、日々の実践や実情の発表等を通して図書館や図書館教育のありかたを考え合うことができました。さらに、本や図書館が、人生や学びを支え、学習の場に位置付いた研究や研修を進められたことも大会の大きな成果といえるのではないのでしょうか。

2日目は、12の分科会が開催され小中学校図書館部会では、「いきいきとした学校図書館を創造する司書教諭の役割」「学校司書の立場からの授業支援」「図書館の管理・運営のあり方」「学習センターとしての機能を推進するための取組」「情報センターとしての機能を推進するための取組」について県内外の実践を分科会や研究概要の資料から共有することができました。午後のSLAの報告、そして記念講演では、『大切な図書館を充実させるにはー地方自治から図書館を考えるー』と題し早稲田大学公共経営大学院教授 元鳥取県知事 片山 善博氏より「知の地域づくり」の推進や行政における現場主義の大切さ、図書館の環境を良くする事の大切さを地方自治のあり方と絡めてお話しいただきました。続いて阿部守一長野県知事との対談も斬新な試みでしたが、いかがでしたでしょうか。

本大会では、申込みがWebサイトからの入力となり、公募型の分科会も開催され、参加の皆様やご担当の各支部の皆様にも、多くのお手数やご心配をおかけしたにもかかわらず、多大なご配慮やご尽力をいただきました。心より感謝申しあげます。ありがとうございました。図書館大会での学びや皆様との繋がりを大切にして今後も歩みを進めてまいります。

最後になりましたが皆様方のご健勝と図書館および図書館教育の充実とご発展を祈念申し上げます。

第 67 回長野県図書館大会・第 29 回北信越地区学校図書館研究大会に参加して

司書教諭委員 松本市立源池小学校 神戸 真由美

今年度は、県司書教諭委員会の一員として参加させていただきました。委員会として、「いきいきとした学校図書館を創造する司書教諭の役割」をテーマに、レポート発表と百科事典を使った演習を行いました。

司書教諭として理想を持ちながらも、多くの校務を兼務するために、動きにくさを感じたり、学校司書という最大のパートナーとの打ち合わせ時間の確保にも苦勞したりしている状況が例年話題となることから、委員の実践から工夫や成功事例を持ち寄り、レポートとして提案させていただきました。

ご参加くださった方々からは、「事例を参考に取組んでみたい。」というご感想や、自校で行っている工夫についての話題をいただき、県下各地また他県の先生方との情報交換をすることができました。

演習では、冊子「力を合わせて図書館教育」掲載の「百科事典 v s インターネット」のワークを皆さんに体験していただきました。その中で、印象に残った場面があります。

「学童疎開」に関わるいくつかの項目について、百科事典担当とスマートフォン検索担当に分かれて調べたところ、百科事典では詳細な数字にたどり着くことができませんでした。インターネット上では、情報が多すぎる上、信憑性に疑問有りという欠点があるものの、具体的な数字が出てきました。その時、スマートフォンを手にした先生方が「何だか、とても悔しい…」と仰ったのです。

日頃、図書館の役割や百科事典で調べる活動を大切にされている先生方だからこそ思わず出た一言だったと思います。同じ思いを感じ取った同席の先生方と「確かに悔しいですね。」と連帯感を感じつつ、双方の検索ツールとしての長所・短所や望ましい調べ学習のあり方について話し合うことができました。

学校での実践に生かしたいと思います。

第 67 回長野県図書館大会・第 29 回北信越地区学校図書館研究大会を終えて

(「第 6 分科会『学校司書の立場からの授業支援
～できることからはじめよう～』を振り返って」)

学校司書委員長 佐久穂中学校 原田 由香利

今回の県の図書館大会は北信越地区図書館研究大会も兼ねて行われた。県外の学校の実践発表も聞けるので興味津々で参加された方々も多いだろう。私もその一人であるが、困ったことに司会進行を任されてしまった。しかし、その任務をしばし忘れるほど各校の実践発表に引き込まれてしまった。

まず富山県射水市立新湊南部中学校の発表ではキャリア教育の一環として2年時に行う「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」と銘打った総合的な学習における司書の先生の具体的な授業支援の方法が分かりやすく説明された。学年（担任）と教科そして図書館を結びつける司書教諭の先生の役割の大切さも随所に表れていた。司書の先生が職業観や仕事に関するブックトークをお昼の時間に行ったり、学年の先生方と協力して新聞の切り抜きを掲示したりする。学習のまとめとして生徒らが自ら「生き方読書案内」を作成し発表し合う。まさに目から鱗が落ちるような実践だと感じた。司書の先生と他の先生方が有機的に連携して生徒達の学びのサポートを行い、生徒らの生きる力を育てているようだ。私自身の学校でもキャリア教育に力を入れ、2年時には職業ガイドを作成し、職場体験学習に関する調べ学習等に図書館を利用するので大変参考になった。

また、私たち学校司書委員会では県下4地区の「図書館システムのネットワーク、司書同士・他の先生方との連携」等について発表した。諏訪市のネットワークや駒ヶ根市の調べ学習の支援について称賛の声が多く、どの地域でも同様な取り組みができるよう関係機関への要望もグループ討議の時に話題になった。いろいろな地区の方の実践や情報交換が出来、本と子供達を結びつけることに情熱を注ぐ仲間との語りはつきなかつた。

北信越地区学校図書館研究大会に参加して

長野市立中条中学校 松村 芳子

図書館司書補となり2年目。月・水・金の勤務の中で、自分に何ができるのか、何をしなければならないのか、毎日考えながら勤務してきました。

今回、初めて図書館大会に参加しました。分科会「図書館の管理・運営のあり方」に参加したり、講演会を拝聴したりして、大変勉強になりました。分科会では、より本を読んでもらうためにどういう取り組みをしているのか、年間利用計画表の作成、読書旬間の見直しなどの取り組み等について、具体的に紹介していただきました。また「調べる学習」の場としてどう運営しているのか等も、紹介していただきました。「なるほど」と感心すること、「良いな、難しいけれど真似したいな」と思うことがたくさんありました。自分一人ではなく、先生方にもご協力いただき、今後の運営に活かしていきたいと思いました。

講演会では、片山善博先生（早稲田大学公共経営大学院教授 元鳥取県知事）から、図書館の重要性を教えてくださいました。『学校図書館では、子ども達に読書の喜び、楽しみ、活用方法を植え付けてほしい。学校を出てから“自ら知的に自立する”ことへの役割の一部を担ってほしい』という言葉に大変感動し、責任の重さを感じました。

今回学んだことを忘れず、今後の図書館運営につなげていきたいと思います。



地区学校図書館教育研究会から

中信地区

10月24日 小谷村立小谷小学校 小谷村立小谷中学校

「中信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

大北支部代表 小谷村立小谷小学校 松尾 修

平成29年度「中信地区学校図書館研究会」は、10月24日（火）に小谷村立小谷小学校、小谷中学校を会場として次のように開催されました。

1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」

2 公開授業・授業研究会

授業校	単元名	授業学年・授業者	助言者
小谷小学校	「ここにこ大作戦」総合的な学習 (保育園児への読み聞かせ)	小学校4年 大日方秀守教諭	総合教育センター専門主事 依田 学先生
小谷中学校	「ミニビブリオバトル」 特別活動	中学校全校 北澤 泰三教諭	中信教育事務所指導主事 千野布美子先生

3 講演

演題 『中学生の読書指導』『小学生の読書指導』

講師 越高一夫先生 越高令子先生 松本 ちいさいおうち書店

4 参加者人数

小学校公開授業…27名 中学校公開授業…35名 講演会…66名

5 まとめ

中信地区の各学校の先生方、図書館司書、公立図書館や教育委員会の皆さんに参加いただき、学校図書館研究会を実施することができました。小学校では、4年生が保育園の年長児を対象として、継続的に行ってきた読み聞かせの学習活動の様子を見ていただきました。中学校では、全校生徒により生徒会活動として行われてきた「ミニビブリオバトル」の活動を見ていただきました。

参加者からは「交流を通して表現力を育むという研究の方向はとても良いと思う。実際の人とのかかわりの中で、相手意識や表現する力が高められていると思う。(小学校)」「異学年が混ざっているとは思えない和やかな雰囲気だからこそ、自分の好きな本を自分の言葉で、語る生徒が多かった。聞き手の問いかけは上級生が慣れていてその姿から学ぶ生徒がいると思う。(中学校)」といった感想をいただきました。

小中学校共に、本を媒介として他者となつがる学習活動を展開することで、相手の立場に立って考え、自らを高めようとする子どもの姿に出会うことができました。

講演会では、「子どもたちが興味を持ち、読みたい気持ちになるための本の紹介の仕方をいくつも教えていただいた。読み聞かせだけで終わらず、自分で読むことができる子どもになるように実践に生かしていきたい。」といった声を寄せていただきました。読書の季節を迎える中、子どもたちに本に親しんでもらう方策を学ぶことができました。

台風一過の清々しい一日、遠方より足を運んでくださいました参加者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



中信地区図書館教育研究会に参加して

池田町立池田小学校 長田 和佳

小谷小学校は、昇降口を入れてすぐの場所に図書館があり、教室へ行くのに必ず図書館を通る構造になっていました。柔らかく明るい日差しを取り込むことができる天窓、壁いっぱいの本棚と200%の充足率の蔵書、子どもたちが手に取りやすいよう表紙を向けて紹介されている本の数々は、天候に関係なく時間を忘れて過ごすことのできるすばらしい図書館環境だと思いました。

そのようなすばらしい環境を生かし、小谷小学校では、読み聞かせ交流を通して表現力を育むことを大切にされた研究をすすめていました。実際の人と人との関わりの中でこそ、相手意識や表現力は、高めたり付けたりすることができるのだと思います。4年生と園児が自然に寄り添い、和やかな雰囲気の中お互いが本に向き合っている姿は、国語的にも道徳的にも、子どもたちの心情を大きく成長させることができていると感じました。振り返りでは、「学びの自覚化」の大切さも教えていただきました。

講演会では、「小学生への読書指導・中学生への読書指導」という演題で、子どもたちが興味をもち「読みたい」という気持ちになるための本の紹介の仕方を、いくつも教えていただきました。小学生では、「短い本」または、途中まで紹介すること。中学生では、宇宙や自然・歴史につながるような物語を紹介することで、子どもの興味を引き出すきっかけになることを教えていただきました。「読み聞かせをしてもらおう」で終わらず、「自分の読み」ができる子どもを育ていけるように、今後の実践に生かしたいと思いました。

南信地区

11月2日 原村立原小学校 原村立原中学校

「南信地区 学校図書館教育研究大会を終えて」

諏訪支部代表 原村立原小学校 上澤 浩

11月2日に、「そうだ、図書館に行こう！」～魅力ある図書館づくりと図書館教育～、の大会テーマのもと、諏訪郡原村を会場に、南信地区学校図書館教育研究大会を開催しました。

当日は、南信地区各地からご参加いただき、原小学校、原中学校の授業公開、研究協議と原村図書館の実践発表をもとに、図書館教育のあり方について協議を重ねていただきました。また、静岡文化芸術大学、常葉大学非常勤講師の林容子先生のご講演も企画しました。

原小学校には、4年生の国語、「わたしの研究レポート」の単元で、自分の調べたい事柄を決め、本で調べて引用したり要約したりすることで、分かったことを明確にして報告書を書く授業を提案していただきました。本時は、子どもたちは調べたことを「見つけたカード」に書き込み、報告書のもとになる資料づくりを進める場面でしたが、図書館を活用した調べ学習の進め方について深めていただきました。学級担任と学区司書との連携についてもモデルを示していただきました。

原中学校には、2年生の理科、「気象予報士になろう」の単元で、日本の四季の天気の特徴を本で調べ、情報カードにまとめることで、自分で天気予報をする授業を提案していただきました。本時は、自分が調べた季節の特徴を、レポートと本を使って仲間と意見を伝え合うという場面でしたが、図書館を使って調べた内容のまとめ方と教科での活

用の仕方を深めていただきました。学習センターとしての学校図書館のあり方についてもモデルを示していただきました。

原村図書館には、こども読書活動推進に子どもたち自身が主体的に取り組むことを目的に設立された「こどもとしょかんボランティア“のこのこ”」の実践を発表していただき、生涯にわたって楽しむ読書活動、図書館とのつながりについて、考え合う機会をいただくことができました。

講演会では、林容子先生から、「心を育て学びをひろげる学校図書館～この宝物を子どもたちに先生たちに～」を演題に、学校図書館のあり方や、今後取り組むべき方向についてお話しいただきました。林先生は、司書教諭制度が導入されたとき、モデル校の司書教諭として、司書教諭の役割や担任と司書教諭との連携について研究、実践を重ねられ、以降、図書館教育の実践を内外に発信されてきました。今回の講演会では、先生の豊富な経験をもとにした学校図書館の充実に向けた具体的な道筋を、学ぶことができました。

新しい指導要領に読書活動が大きく位置づけられ、この教育の重要性が益々高まる中、多くの皆様のご参加で大会を大きく盛り上げていただき、研究を深めていただきました。

終わりに、本大会開催にあたり全面的なご理解とご支援をいただきました、指導者の先生方、原小学校、原中学校、原村教育委員会に心から感謝申し上げます。

南信地区学校図書館教育研究大会に参加して

茅野市立豊平小学校 伊藤 如騎

今年度初めて図書館教育係になりました。私自身、読書は好きなのですが、いつから、どうして好きになったのかもよく思い出せません。子どもたちにも、ぜひ本を読んでもらいたいという気持ちはありますが、ではいったいどうするべきかということを考えることがなかなかできませんでした。この度、学校図書館教育研究大会に参加させていただくに当たり、児童と図書館を繋ぐアイデアをいただきたいという思いで臨ませていただきました。

原小学校4年生の国語の授業を参観させていただきました。そこには、自ら進んで本を手に取り、自分の疑問を解決するに足る情報を一所懸命に探す子どもの姿がありました。私が姿を追っていた児童は、数冊の本の中から自分の知りたかった情報を見つけた時、小さく拍手をしていました。知識を与えられるのではなく、自分で探し出し解決した、知る喜びを得た瞬間だったのではないかと思います。また、そのような姿があったのは、事前に児童の疑問を捉え、必要な本をピックアップし、児童の手に取りやすい位置に配置した担任、司書教諭の先生方のきめ細やかな環境整備があったからではないかと思います。

林容子先生によるご講演では、特に「思い出の本の記憶」のお話が心に残りました。子どものみならず、大人でも思い出の本には、内容はもちろん、その本を手渡してくれた誰かであったり、読み聞かせをしてくれた誰かといった人や場面のエピソードも付随して、思い出がよみがえってきます。適書適薦、その時にあった本を、その時に合う形で子どもたちに薦めることができるような大人になりたいと考えさせられました。



「東信地区 学校図書館教育研究大会を終えて」

上小支部代表 上田市立城下小学校 塚田 量

平成29年度「東信地区学校図書館教育研究大会」は、11月17日（金）午後、上田市立北小学校及び第三中学校を会場として、以下のように開催されました。充実した研修の時間となりました。

1 研究テーマ 「一人ひとりの学びを支える学校図書館のあり方」

2 公開授業・授業研究会

	授業学年・授業者	単元名	助言者
北小学校	小学校2年 中山弘樹 教諭	「一年生に読み聞かせしよう」 特別活動	総合教育センター 専門主事 依田 学 魁
第三中学校	中学校1年 秋山可織 教諭	「武家政権の成長と東アジア～室町時代の民衆と文化～」社会科	東信教育事務所 主任指導主事 畑 邦宏 魁

3 講演会 講師 児童文学作家 和田 登 先生

演題 「だから物語はステキで面白い」

東信地区の各学校から、学校司書の皆さんをはじめ、学級・教科担任の先生方など、小学校に54名、中学校に38名、講演会に105名の参加をいただきました。

公開授業については「本に囲まれた部屋の中で『一年生のために本を選び、自分もその本の世界に浸りこむ』という姿がとても印象に残りました。図書館の中で、本と関わり、充実した時間を過ごすという経験が、子どもたちの生活と心を豊かにしていくのだろうと思い、図書館教育のあるべき姿を拝見しました。（小学校）」

「一人一人の生徒が活発に活動に参加し、自分が調べた資料と級友が調べた資料を繋ぐ学習を行っていた。図書館の資料を活用する学習の姿として、また『思考力・表現力・判断力を育てる深い学び』として、大変参考になった。授業で積極的に図書館を利用していくために、司書の先生との連携の工夫が大切になると改めて感じた。（中学校）」などの感想をいただきました。

講演会講師の和田先生からは、「本との出会い、言葉との出会いが、その人の人生を輝かせる」というテーマと共に、「創作者の視点から立った物語の楽しみ方、奥深さ」についてもお話をいただき、参加者にも好評でした。

「読書から得る力、物語の想像力が子どもたちの生きる力に結びついていくことの大切さについて感じました。まずは自分から読書をし、子どもたちへ繋げていきたいと思います。」「小学校時代、担任の先生に褒められたことを一生覚えていることはすごいことだと思った。こちらが何気なく言った言葉でも、子どもたちはずっと覚えている事があるかも知れないと思うと、教職の奥深さを感じる。」などの声を寄せていただきました。

東信地区図書館教育研究大会に参加して

東御市立祢津小学校 塚田 直道

上田市立北小学校2年3組の授業を参観した。ペアを組んで交流を続けてきた1年生に読み聞かせをする本を選ぶ場面であった。Rさんは、選んできた絵本の一行一行をじっくりと読んでいた。ペアの1年生のことを考え、この絵本でよいかどうかを吟味している姿であった。「1年生が喜んでくれたらいいなあ」と思っていて、1年生が喜んでくなくても、一生懸命読んであげるといいかな」授業の最後に書いたRさんの感想である。1年生のために読み聞かせをすることを通して、読書に向き合う自分をさらに高めていくRさんではないかと感じた。この授業から、子どもの読書に向き合う姿が高まっていくために、読書に向き合う場面を一工夫して設定していくことが必要だと感じた。

講演会では、児童文学作家の和田 登先生の講演を拝聴した。先生は、ご自身の子どもの頃の本との関わりや、その関わりをつくってくれた教師の姿をお話してくださった。本をよく読んでくださる先生と出会い、本を読む力がついていったこと。読書することで、嘘を書いてもいいとわかり、小説家を目指したこと。また、ご自身の体験と重ね合わせ、ヘルマン・ヘッセや堀辰雄の言葉を紹介して、子どもにとっての読書の大切さを次のように話された。

「これから世の中がどうなっていくか。自然災害の発生やAIの発達など、30年後の社会が見通せない。そういう中で子どもたちは切り抜けていく強い力を今つけておかないといけない。そのベースの一つに読書がある」

子どもたちが確実に生きる力を高めていくために、読書する力を高めなければならない。それは、教師の役割であることを、2年3組の授業を思い出して改めて強く感じた。



部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第148号

発行日 平成29年12月14日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会小中学校図書館部会（代表 和田 敦）